

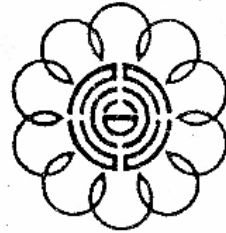
平成7年度

第27回 越谷市民文化祭

平成7年11月23日(木)～26日(日)

越谷市郷土研究会展示部門出品紹介

於 越谷コミュニティセンター 大ホールホワイエ



- ◇周りの10個の輪は、昭和29年11月3日に合併した十町村である
二町八ヶ村（「越谷町」の誕生）をあらわす。
十町村とは、越ヶ谷町・大沢町・桜井村・新方村・増林村・大袋村・
萩島村・出羽村・蒲生村・大相模村をさす。
なお、市に昇格したのが昭和33年11月3日。
- ◇中央部周りのデザインは、カタカナの『コ』を4個集めたもの。
つまり、越谷の『越』（「コ4」）を意味する。
- ◇中心部のデザインは越谷の『谷』の文字を図案化したものである。

第27回 市民文化祭の

越谷郷土研究会展示作品リスト

番号	題名	頁	出品者名	住所
一	芭蕉の句碑	1	小原勲三郎	宮本町三丁目
二	旧船渡・大松・大杉村の石仏	2	加藤 幸一	春日部市大枝
三	越谷の道しるべ	13	加治 正則	南荻島
四	越ヶ谷駅の開業	16・17	小島 誠	平方
五	七左町の本山修験宗三明院	18・19	鈴木 秀俊	宮本町二丁目
六	赤山陣屋と赤山街道	20	鈴木 種雄	赤山町二丁目
七	消えた木造校舎	21	高崎 力	平方
八	越谷上空で散華した飛行兵	22	高橋 清	新川町一丁目
九	昭和10年の越ヶ谷電話番号簿	23	谷岡 隆夫	宮本町三丁目
十	新方川(千間堀)の源流	24・25	宮川 進	千間台西二丁目

※右の展示作品や入会に関する問い合わせ先は、

越谷市郷土研究会の谷岡隆夫(当体会長・☎6217527)までお願いします。

芭蕉の句碑

小原勤三郎

市内西新井・西教院に芭蕉の句碑がある。

〔碑表面〕 ミちはたの 木槿は 馬に喰れけり
〔碑裏面〕 たいらなり 初曙の 昇汐

白扇

高さ一一〇糎、幅九十糎、厚さ十糎。建立の年月は入っていない。

同院は、日光街道から御成街道の大門宿へ向かう街道に南面している。

白扇は葛飾蕉門、其日庵七世列山の門人で、本名斎藤徳三郎。

西新井村で名主を勤める旧家であった。

一八二二（文政五）年、入門。

一八三八（天保九）年、判者にすすみ、宝机庵と号した。

一八六六（慶応二）年没。

白扇は寺子屋の師匠をしていたとみられ、斎藤家墓所に筆子中により造立された白扇の墓がある。

戒名「永隆院涼菩提風白扇居士」

芭蕉の句碑は、もとは、この墓石の前にたてられていた。

のち、本堂前の現在地にうつされたものである。

碑表面の句は、一六八四（貞享元）年、芭蕉が江戸を発ち、伊勢へ向かう途中、東海道の大井川をすぎたころ詠んだものである。

道のべの 木槿は 馬に喰れけり

甲子吟行（野ざらし紀行）に所載されている。



芭蕉の句碑



西教院山門

二 旧船渡、大松、大杉村の石仏

加藤 幸一

越谷の信仰や生活などを解明する貴重な石仏類が開発の波にのって、葬られつつある。そこで今のうちに詳細にかつ正確に記録したいと旧船渡村・大松村・大杉村に散在する江戸期の石仏類について調査した。詳細については船渡の無量院や大松の清浄院に資料を置いておくのでご請求（無料）願いたい。

I 旧船渡村

(1) 浅子家近くの路傍

図1は頭上に馬の頭が載せられた馬頭観音像である。腕が2本あるので死馬の供養のために造立されたものとわかる。このあたりはかつては村境の死馬捨て場で、この石仏は土盛りした塚の上にあった。近くに住む浅子家（船渡二一八）が管理している。

(2) 上組集会所の墓地

ここには昔「寮」と呼ばれた建物があったというが、その寺院名は不明である。

図2は念仏供養塔であるから主尊は普通は阿弥陀如来像となるべきであろうが、如意輪観音菩薩像となっている。それは、埼玉県では越谷市など千葉県に隣接する地域に念仏信仰と結び付いた十九夜月待信仰が盛んで、主尊が如意輪観音であったからである。図3の「名号」とは「南無阿弥陀仏」を指す。図4と5の「十三仏」とは十三人の仏様を指す。今でも十三仏信仰は見られ、人が死亡してから七日目の初七日（不動明王）の法事から始まって、三十三回忌（虚空蔵菩薩）までの計十三回の法事にそれぞれの法要本尊として配当されている。

(3) 船渡香取神社

旧船渡村内にあった山王社、天神社などを明治四十五年はこの香取社に合祀している。

図6は不動明王像である。中央には炎の中にすわる不動明王が、下には狩羯羅（向かって右）・制多迦の二童子がいる。

像容は成田山新勝寺のものに似せたものである。この地でも成田山の不動信仰が盛んであったことがうかがわせられる。図7は庚申塔である。庚申信仰は江戸時代に全国津々浦々で庶民の間に盛んに行われ、その記念として造立された庚申塔はいくつあるところに見られる。主尊は青面金剛で、腕が六本もある。図7のように目が三ツ目となっている場合もある。上には日月、下には踏み付けられた鬼、さらにその下には「見ざる、聞かざる、言わざる」の三猿が見られる。図9のように雄と雌の二鶏が描かれていることもある。また、図8、10、11のように文字のみしか刻まない、いわば手抜き式の庚申塔も江戸時代の中頃から末期にかけてよく見られる。

図14は庶民の間で長寿の神として信仰されていた警長姫を祭った石塔である。図15は当時恐れられていた疫病である痘疹、痘疹の神様を祭った石塔である。図16は金毘羅様を祭った石塔である。

(4) 無量院院脇の用水水路

無量院前の道は古道である。ほぼ東西に走る古道の道筋を西から紹介すると、浅子建築の東方の二股の道を右に進み、道なりに通って再び新道に出て、それを横切って福田家脇の道に進み、現在の浅子家の敷地内（今はこの道は無い）、そして香取神社前を通って無量院前の道に続くS字形の道筋である。

図19は古利根川から取水していた用水路そばの石仏である。用水路に渡す石橋を建立した記念に造立したものである。

(5) 船渡無量院

仏説山無量院は、三尊上人の頃の開山である。上人は天正二年（一五七四）八月二十二日に没している。なお、本堂の裏には三角点が設置されている。

図20、21、22は「六地藏」の石仏である。六地藏とは地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天の六つの迷界である六道を輪廻転生する人々がどこにいて迷っていても救いの手を差し伸べられるようにと、六つの分身として表されたものである。

図23はこの寺院の開山塔である。三尊上人の没年が刻まれ、主尊は弥陀定印の阿弥陀如来像となっている。

(6) 船渡第八班集米△云所そば墓地

ここはもと龍正寺の跡地である。図24の石仏には「龍正寺」の文字が刻まれている。

(7) 船渡新田集米△云所

ここは船渡本村から離れた新田の村である。船渡集会所は神田家（船渡二九二）と海老名家（船渡二八六）に挟まれ、奥まった所にある。江戸時代はここに寺院があったと思われるが、今となってはその寺院名は不明である。

図25は釈迦如来像で、石仏としてはかなり大きい。図27の普門品は俗に観音経ともいわれ、庶民の間でよく唱えられていた。

II 旧大松村

(1) 大松香取神社

本殿向かって左側の奥道平方東京線沿いに力石と思われる大石が八基程並んでいる。力石とは江戸時代に入々が力試しに抱え上げた大石である。神社の境内などに記念として置かれる。

本殿向かって左側に八坂神社（祇園社）の祠がある。その中には祠型の石塔が納められ、よくキュウリが奉納されている。そこで地元では胡瓜天王様（天王とは八坂神社の神である牛頭天王をさす）と呼ぶ。その例祭は七月十四日に今でも細々と行われ、縁日がたっている。この七月十四日に限ってキュウリは食べてはいけないという俗説が残されている。昔、武士がキュウリ畑に隠れて命拾いしたとの伝説からきているという。

図4は学問の神である菅原道真像である。寺子屋などに天神様の掛け軸が飾られ、石仏としてはよく神社に奉納された。

(2) 平野家改階傍

奥道平方東京線の大松一七五二の平野家東側の路傍には同一七五二の平野家代々が管理してきた石塔が二基見られる。図5は六十六部回廊で、大松村の通巻円心が、法華経（大乗妙典）をわが国の六十六か国すべてに納めようと廻った記念に造立したものである。図6の造立も通巻円心である。

(3) 長野家本家改階傍

長野家は大松村の名主を代々勤めた家柄で、地元では「四郎兵衛様」と呼ばれている。長野家は明治中頃に一時途絶えたが、明治三十一年に再興した。

図7の天保九年の文字庚申塔の左側面には「四郎兵衛」と言う文字が見られる。
なお、長野家そばの海老名家(大松六二二)の南西隅に海老名家が管理する祠が置かれている。中には板碑の破片が三基奉納されている。また、ここより西に百メートル行った路傍北側に長野家が管理する勢至堂(お勢至様)と呼ばれる祠がある。この中には、嘉吉四年(一四四四)の阿弥陀三尊板碑など破片を含めて八基の板碑が安置されている。

(4) 大松清浄院

この寺院は「栄広山浄土寺清浄院」と称し、室町時代中頃に現れた賢真上人の開山である。戦国時代には、新方領六ヶ村(船渡、大松、大杉、川崎、向畑、大吉)を領有した。

図8は六阿弥陀参りのために寺院に建てた標識である。阿弥陀如来を安置している六か所の寺院を春と秋の彼岸に巡拝する信仰である。江戸の町で盛んに行われた。この越谷地域にも江戸の六阿弥陀参りをまねて「新六阿弥陀参り」として行われた。現在、増林の林泉寺に「新六阿弥陀二番」、平方の林西寺に四番、大泊の安国寺に五番、ここ清浄院に六番の標識が残っている。願主はすべて船渡村の受道である。また三番は登戸の報土院である。一番は不明であるが、天岳寺であろう。

図10は開山塔である。清浄院を開山したのは賢真上人で、上人の没年「宝徳元己巳年七月廿八日」も刻まれている。この石塔の上部には溝があるが、ここに板碑(今は行方不明となり所在不明)を差し込んで、これを「藤原様」と呼んだ。そして地元の人々によって大いに信仰され、関東大震災の頃まで列をなして多くの参詣者で賑わったという。またこの藤原様を覆うための簡単なお堂(今はない)と、お堂から垂れ下がるたくさんの竹筒があり、その竹筒に耳をあてると耳たれなどの病気が治るとの信仰があった。

図11は清浄院の中興である文誉上人の墓塔である。上人は戦国時代の頃の第十代の住職である。永正十八年(一五二二)正月、敵である八条郷(今の八潮市あたり)の地頭八条氏を追い払って、奪われた新方郷の地頭である向畑城主新方氏の領地を取り戻した。さらに敵によって焼き払われた清浄院を再建した。後に人々は文誉上人の霊を敬い、「新方様(しんぼうさま)」と呼び、後々までも信仰されてきた。

図12は大川戸杉浦家の祖の墓塔である。大川戸に住む杉浦家の祖は杉浦定政である。定政は関ヶ原の戦いが起こる以前に家康から大川戸の御殿をもらう。杉浦家はその後は関東郡代の伊奈家に代々仕える有力家臣となる。

(5) 相心寺跡墓地

大松集会所からこの墓地にかけては相心寺跡地である。図13の墓塔には「相心寺」の文字が刻まれている。

III 旧大杉村

(1) 大杉香取神社

鳥居に掛かっている額には「稲荷神社」・「香取神社」と縦書きで並んで書かれている。古くから信仰されてきた香取社に更に稲荷社を合祀したものであろう。また、鳥居向かって右側の手前に、地元の地名と同名なためか、茨城県の桜川村にある大杉神社の神を分祀した祠がある。地元では「安武様(あぶさま、あんぶさま)」と呼んでいる。安武様の例祭は七月二十六日、越谷市越ヶ谷にある久伊豆神社の神主が招かれて拜まれる。

図1は庚申塔である。三猿のうち、見ざると言わさるが両側の角にいるのが珍しい。

(2) 大杉第一集米△云所

ここは大杉香取神社に隣接しているが、浄閑寺の跡地である。毎年五月八日に「薬師まつり」が行われている。図4の阿弥陀来像には「浄閑寺」の文字が刻まれている。

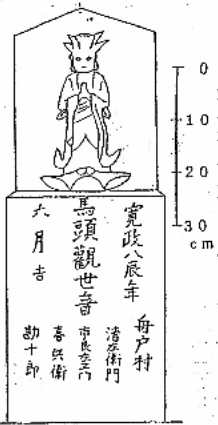
(3) 大杉新田稲荷神社

ここは大杉本村から離れた新田の村である。

図9は猿田彦庚申塔である。庚申信仰の主尊は一般には青面金剛という仏様であるが、神道では猿田彦という神様であるとしている。猿田彦庚申塔は江戸後期に多く造立された。

旧船渡村

1. 船渡 馬頭観音菩薩像

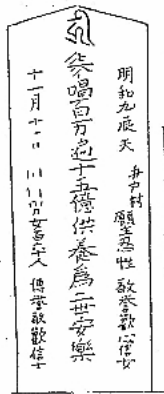


0
10
20
30 cm

2. 船渡 如意輪観音菩薩像



3. 船渡 名号塔



10. 船渡 文字庚申塔



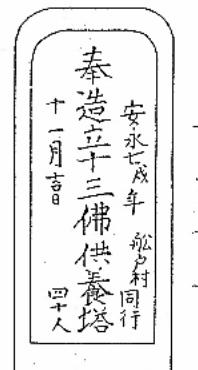
11. 船渡 文字庚申塔



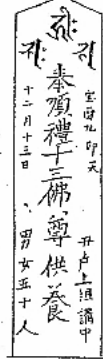
12. 船渡 青面金剛像庚申塔



4. 船渡 十三仏供養塔



5. 船渡 十三仏巡礼供養塔



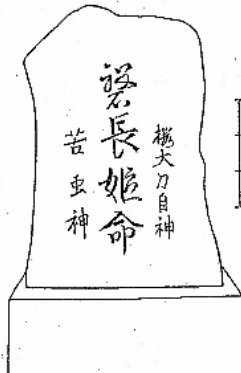
6. 船渡 不動明王三尊像



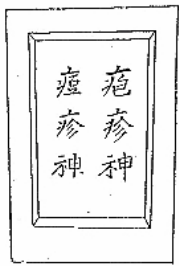
13. 船渡 青面金剛像庚申塔



14. 船渡 磐長姫文字塔



15. 船渡 痘疹神・痘疹神文字塔



7. 船渡 青面金剛像庚申塔



8. 船渡 文字庚申塔



9. 船渡 青面金剛像庚申塔



16. 船渡 金毘羅大権現文字塔



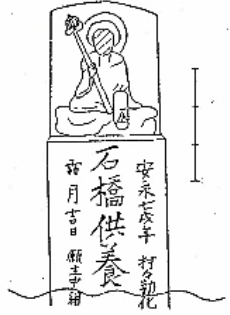
17. 船渡 稻荷大明神文字塔



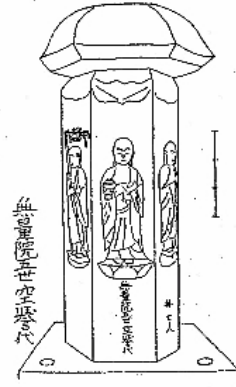
18. 船渡 稻荷大明神文字塔



船渡
19. 地藏菩薩像付き石橋供養塔



船渡
20. 六地藏石幢



船渡
22. 一石六地藏菩薩像



船渡
23. 阿彌陀像付き開山僧墓塔



船渡
25. 丸彫り釈迦如来像



船渡
26. 青面金剛像庚申塔



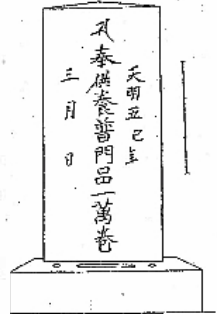
船渡
21. 一石六地藏菩薩像



船渡
24. 一石六地藏菩薩像



船渡
27. 普門品供養塔



旧大松村

大松
2. 青面金剛像庚申塔



大松
3. 普門品供養塔



大松
4. 天神像



大松
5. 六十六部回国塔



大松
6. 念仏供養塔
享保八年癸卯歲

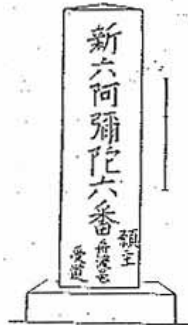


十一月七日

大松
7. 文字庚申塔



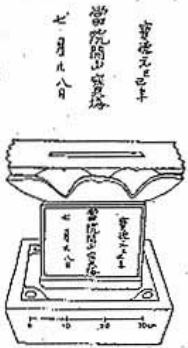
大松
8. 『新六阿彌陀六番』標識石塔



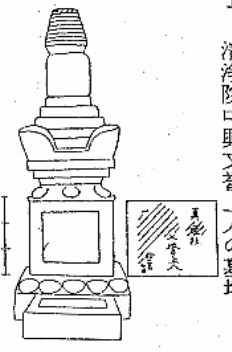
大松
9. 地藏菩薩像付き回国供養塔



大松
10. 清浄院開山宝塔



1本 清浄院中興文蒼上人の墓塔



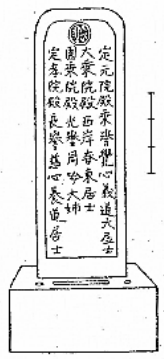
1本 旧大杉村
おおすぎ
文字庚申塔



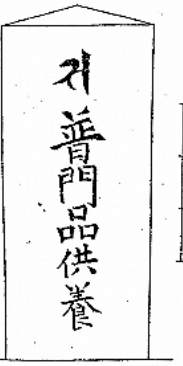
4本 阿弥陀如来像



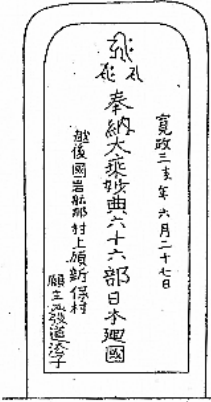
1本 大川戸杉浦家の祖の墓塔



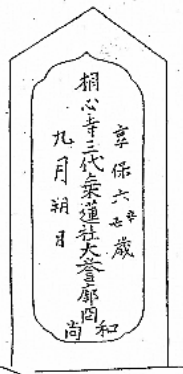
2本 普門品供養塔



5本 六十六部回国塔



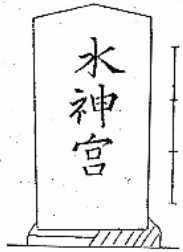
1本 相心寺住職の墓塔



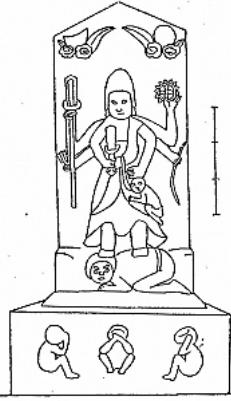
3本 普門品供養塔



6本 水神宮文字塔



7本 青面金剛像庚申塔



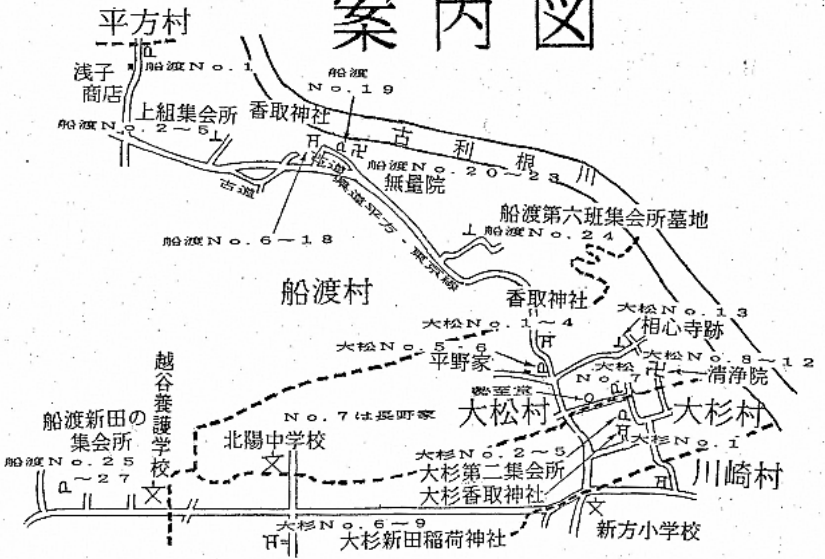
8本 疱瘡神文字塔



9本 猿田彦文字庚申塔

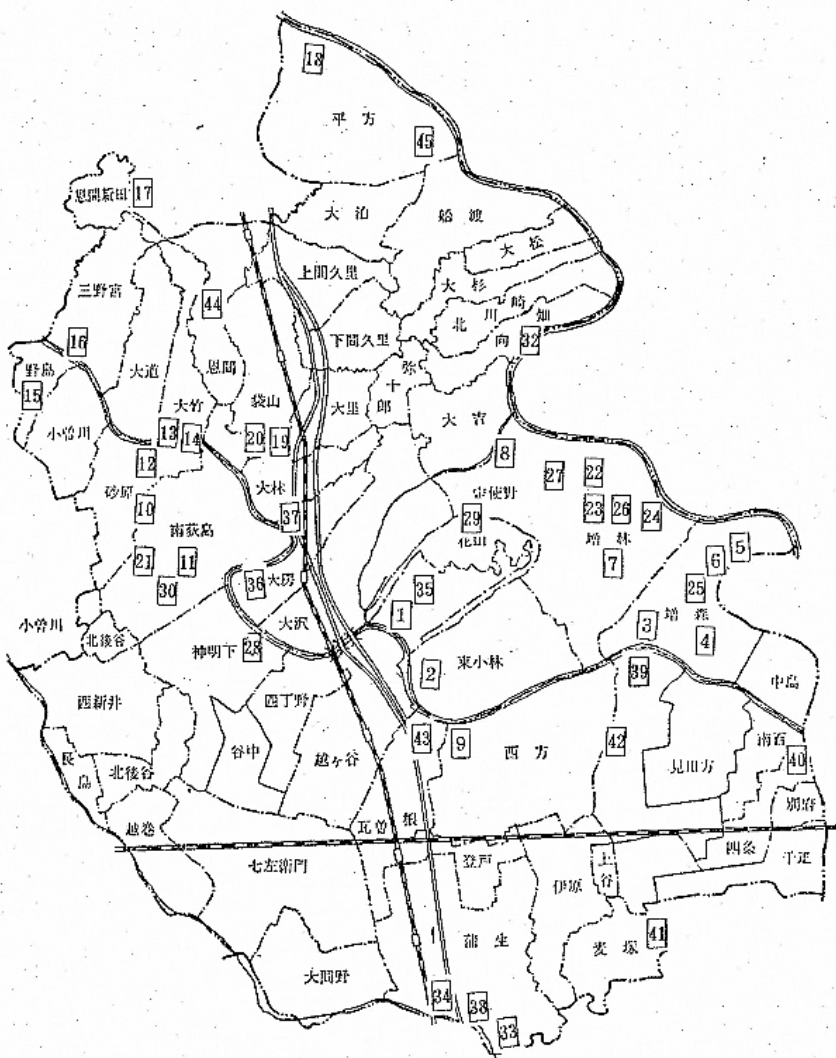


旧船渡村・大松村・大杉村の案内図



越谷の道しるべ

道しるべ 所在場所



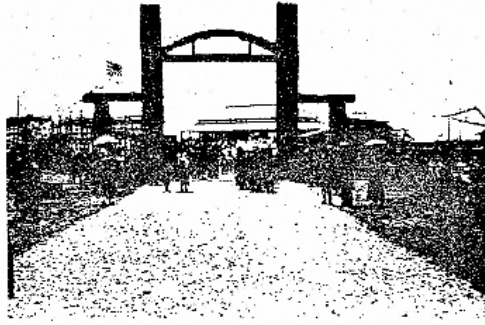
No	場所	年号
1	天徳寺人口	文化4 (1807)
2	香取神社境内	文化11 (1811)
3	増森南崎店先	文化5 (1808)
4	三丁野神社	
5	増森集会所	大永5 (1525)
6	増森集会所	嘉永3 (1850)
7	増林小学校跡	安永2 (1773)
8	増林金液	嘉永3 (1850)
9	西方県道脇	享保8 (1723)
10	野中集会所	寛政12 (1800)
11	堤根通	安永元 (1772)
12	砂原久伊豆神社	文化2 (1805)
13	大竹神社	天保3 (1832)
14	大竹墓地	安政3 (1856)
15	野島神社	正徳3 (1713)
16	一乗院境内	安政3 (1856)
17	恩間新田	嘉永6 (1853)
18	林西寺	嘉永元 (1848)
19	大林神社	天保9 (1838)
20	大林神社	文政2 (1819)
21	荻島中組集会所	文化2 (1805)
22	林泉寺境内	安永7 (1788)
23	増林農園倉庫	天保3 (1832)
24	勝林寺	万延元 (1860)
25	増森神社	文化12 (1815)
26	増森墓地	天保5 (1834)
27	増林神社	文政7 (1824)
28	神明橋脇	享保15 (1730)
29	宮野頓	寛永2 (1625)
30	堤根倉田邸内	寛永12 (1635)
31	南百	
32	向畑	文政3 (1820)
33	蒲生愛宕	安政4 (1851)
34	蒲生坂瀬川脇	享保7 (1722)
35	久伊豆神社境内	寛政12 (1800)
36	北越谷久伊豆神社	文政8 (1825)
37	北越谷第五公園	寛政2 (1790)
38	蒲生南町一丁目	元治元 (1864)
39	大相模おいてき塚	天明6 (1786)
40	大相模東町一丁目	
41	川柳浅間神社	
42	大成町一丁目	
43	瓦曾根交差点	昭和16 (1941)
44	恩間香取神社	天保10 (1839)
45	平方戸鼻崎	明治27 (1894)

三 越谷の道しるべ

加治 正則

道路・辻・わかれ道など、道の方向を示した道標が市内各地にたてられている。庚申塔などが道標を兼ねているものもある。宅地開発や道路事情で、最近移動されているものも少なくない。私の趣味のマラソンの途中にみつけたものを集めてみた。

紙面の都合で掲載は一部省略
(越谷の道しるべ)



越ヶ谷駅の開業祝賀式 大正九年四月十七日

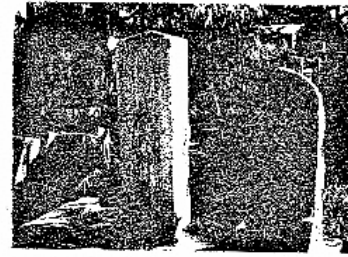
東武鉄道唱歌

千住町より始まりて久喜に至るは東武線
 その名は武蔵の東方を過ぐるが故と悟るべし
 開け通ひしその年は三二年葉月なり
 二五哩あるところサーチャーワン鉄擲てば
 瞬くひまに飛ぶがごと端より端に至るぞや
 大師に名高き西新井過ぐれば直に竹ノ塚
 次なる草加のあたりには形屋晒屋数多し
 新田出でて蒲生村(旧)連なる稲田見るにつけ
 神のみ息み思ひ出で涙にむせぶ程もなく
 声のあたりを眺むれば雁鴨鴛や鳩雀
 彼方此方に下り立ちて群居る様ぞ面白き
 千歳の命延ぶる蝶越谷駅の桃の花
 見るも一興その次はかねて音に聞きつらむ
 武里村と名を呼びて呑龍上人生れけり
 東武埼玉第一の町柏壁に着すれば
 岩槻町へ二里あまり第四中学ここにあり
 藤に名だたる牛島はまたこの付近と知りぬかし
 急ぎ急ぎて杉戸には足もとみめず忽ちに
 和戸の駅へと着きぬれば施戯鬼を以て著名なる
 高野の村の松林に高き櫓が見ゆるなり
 こはこれ三角点といひ陸地測量器械なり
 次は端なる久喜の町久喜は東武端の町
 明治三十三年九月

大正九年四月十七日、越ヶ谷駅の開業祝賀式が行われた。
 緑のアーチ、イルミネーション、商品陳列場が設けられ、相撲や神楽が挙行された。
 さらに小学生の旗行列・青年団の仮装行列や提灯行列が催され、町は終日の賑わいをみせた。
 この新設駅は越ヶ谷停車場と称され、それまで大沢町にあった越ヶ谷停車場は、武州大沢停車場と改称された。
 大正十年度の越ヶ谷駅の乗降客は、一日平均七七七五人である。

四 越ヶ谷駅の開業

小島 誠



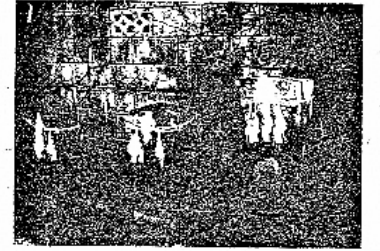
1 天嶽寺入口



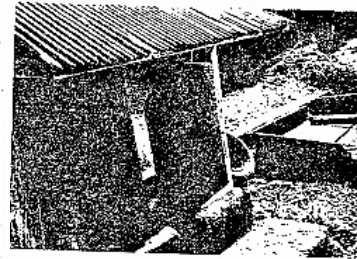
33 蒲生愛宕



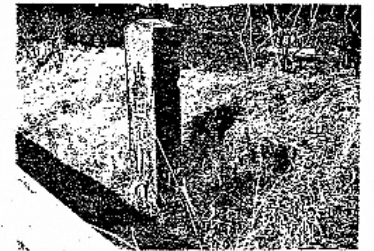
2 香取神社境内



36 北越谷稻荷神社



8 増林全波



38 蒲生南町一丁目

各駅の誕生日

<現駅名>	<旧駅名>	<開業年月日>	<記 事>
【伊勢崎線】			
北千住		明32. 8. 27	(国鉄常磐線既設停車場) 昭20. 7. 31 営業休止 昭25. 11. 15 復活
小菅		大13. 10. 1	
五反野		大13. 10. 1	明41. 12. 2 廃止 大14. 11. 10 再開業 明41. 12. 25 旧駅廃止とともに現駅開業 昭31. 12. 1 越谷と改称 大3. 11. 20 武州大沢と改称 昭31. 12. 1 北越谷と改称
梅島		大13. 10. 1	
西新井		明32. 8. 27	
竹塚		明33. 3. 21	
谷塚		大14. 10. 1	
草加		明32. 8. 27	
草加坂所		昭6. 3. 13	
草加団地		昭37. 12. 1	
松原		明32. 12. 20	
新田		明32. 12. 20	
蒲生		明32. 12. 20	昭24. 9. 1 春日部と改称
越谷		大9. 4. 17	
北越谷		明32. 8. 27	東武鉄道最初の開設区間は北千住・久喜間 (日本鉄道、後の国鉄東北本線既設停車場)
袋里		大15. 10. 1	
割部		明32. 12. 20	
宮戸		大15. 10. 1	
喜戸		明32. 8. 27	
柏		昭2. 9. 1	
壁		明32. 8. 27	
		明32. 8. 27	
		明32. 8. 27	
		明32. 8. 27	

東武線時刻表 (大正4. 2. 12 東京毎夕新聞第一夕刊)

浅草 発			
午前		午後	
6:15	伊勢崎	2:10	伊勢崎
8:10	同	5:30	同
10:00	同	6:45	新伊勢崎
12:00	同	8:30	加須

五

七左町の本山修験宗三明院

鈴木 秀俊



三明院本堂

ここに紹介する出羽不動尊三明院は、越谷市内ただ一つという本山修験宗の祈禱寺院で、号を正本山明王寺と称し大本山京都聖護院の直末である。本尊は、成田山新勝寺の不動明王を遷し祀り、修験道の開祖役の行者を合祀している。

安政七(一八六〇)年三月開基された。初代住職秀貞は、法務・修行に熱心で三明院を創建した。この功により慶応三(一八六七)年十一月十四日、大本山から「金剛地結製袷免許状」と「黄色衣着用免許状」を与えられている。しかし、明治五(一八七二)年神仏分離令によって修験道は廃止となり、鹿寺や山伏・修験者の還俗が相次ぎ混乱した。三明院も天台宗寺門派に組み込まれ一時は非常な苦境に陥った、と推察される。開基後、僅か十二年のことであった。その後、峰入りの再開や峰入り拠点寺院・由緒寺院の復興が進められた。二世住職秀定は、父に劣らず法務に勤んだので、講中や信徒も以前にまして多くなった。

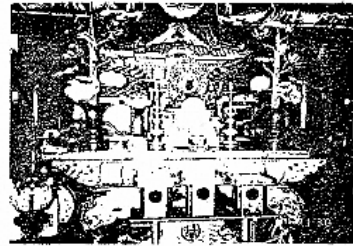
川上八左衛門・小船吉蔵と連名で埼玉県知事に再建願いを提出して許可を受け、明治二十一年一月に至り完成したが、現在の三明院である。再建費寄進者には、地元信徒をはじめ、松伏の石川鳳蔵(民部)、越ヶ谷町木下半助など各地の有力者が名を連ねて

いる。

東京本所千歳町の榎本吉三郎は、明治二十二年二月、三明院の宝物として光格天皇御連子・熊野三山檢校・聖護院准三宮一品盈仁親王の御親筆「遠山背入霧」の掛け軸を大本山の許しを得て寄進した。

明治二十二年には、聖護院門跡から三通の文書が三明院に下付されているが、九月二十八日の文書に「今般都合に依り、大本山出張所に相用い候事」とあり、重要視されていたことが判る。

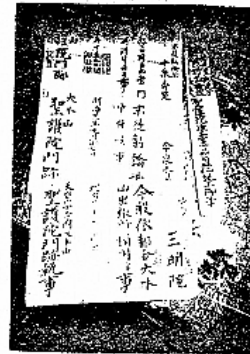
当時の記録によると、信徒数千五百名、内戸主、六百名といわれ、「参拝スル者 日夜陸續繼ルガ如シ」と、その隆盛ぶりを書き残している。



三明院本尊



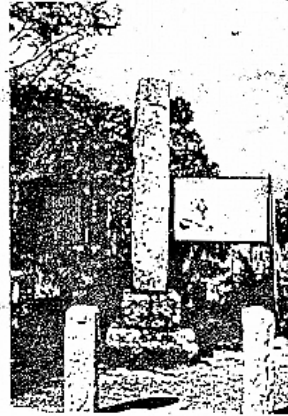
金襴地結架發免許状



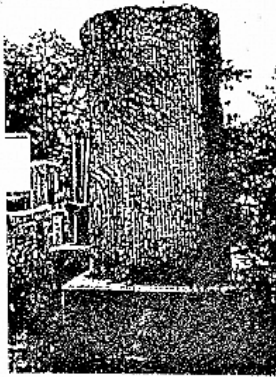
大本山出張所認可状

六 赤山陣屋と赤山街道

鈴木 種雄



赤山陣屋跡



伊奈家頭徳碑

赤山陣屋は川口市にあり、赤芝山を略した赤山に居館を構えた。伊奈忠治により寛永六(一六二九)年に築かれた。伊奈氏の威勢を示す広大な敷地は、本丸と二の丸の中核だけでも三万坪に及び、空堀と土塁に囲まれた丘陵の要害である。赤山陣屋は関東郡代伊奈家の支配所となった。

伊奈家代々の治水と新田開発の業績は特に優れた。水に悩まされ続けた関東平野は見渡す限り水田のひろがる「みのりの大地」へと変貌した。その功徳をたたえ、写真のように菩提寺の源長寺に伊奈家頭徳碑が寛文十三(一六七三)年に建立された。

陣屋には四つの門があり、その門から四方へのびる行政の道がそれぞれ赤山街道と称されるようになった。

越ヶ谷へのびる赤山街道は、現在の地図によると県道越谷・鳩ヶ谷線と記入されている。

赤山街道の名は、越谷のほか東川口や竹ノ塚にも残っている。

越ヶ谷への赤山街道は、当初、低地を避け、綾瀬川付近で蛇行していたが、現在ではほぼ直線に改修された。

越谷市の赤山町は、この赤山街道に因んで名づけられた。

近年、大坂店ヨークマートの進出による活況や、東武線開かずの「赤山踏切」が高架工事で改善されたことにより、赤山街道は表情を変えていく。

七 消えた木造校舎

高崎 力

大正三年十二月、それまで仮教場であった大泊安国寺から引越しの際、新築された桜井村の小学校校舎は、大正十二年の関東大震災で南校舎は倒壊した。北校舎（写真右）は北側に傾斜したので引き起こし、米国援助の丸太で支えられながら、町村合併後まで使用された。



（昭和27年・桜井小学校）

昭和三十二年、木造校舎としては市内最後の建築となった東中学校校舎（写真左）も今では他の小中学校同様に鉄筋コンクリート造りになり、市内から木造校舎は消えた。写真の木造不動橋は、東中学校開校に合わせて架橋された。現在は三代目の鉄筋コンクリート橋になり、遠方の田園には流通団地の大きな建物が群立するようになった。



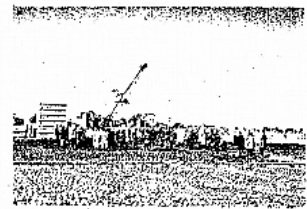
（昭和37年・東中学校）

八 越谷上空で散華した飛行兵

終戦五十年秘話

高橋 清

昭和二十年四月七日、B 29・P 51大編隊と交戦した日本軍戦闘機が、市内大吉耕地に墜落炎上した。その後、昭和四七年二月、母親の切なる願いにより発掘し、遺体を収容したときの話。この日、マリアナ基地を発進したB 29・一〇〇機は、途中硫黄島を基地とするP 51戦闘機を初めて伴い（戦爆連合）密集大編隊にて、都下武蔵野市にあった中島飛行機製作所（エンジン工場）を空爆した。これと交戦したのが柏飛行戦隊五式戦闘機隊で、越谷上空で空中戦を交えた。このうちの一機は同上空で被弾し、市内新方村大吉の耕地に墜落炎上した。新方村ではこの搭乗員の遺骸の一部（右片足）を大吉の徳蔵寺で火葬に付し、遺骨を所属部隊に引き渡した。



大吉耕地の発掘



発掘された飛行機部品

その後の調査により、この飛行隊員は福井県福井市出身の平馬康雄軍曹であることがわかった。

遺体および機体はまだ地中深くさきつたままに残っているとの話で、母親は自費をかけても遺骨を収容したいとの念願により、戦友会は関係機関に陳情した。昭和四七年二月、自衛隊の手により発掘され、遺体および飛行機の残骸は収容された。

平馬軍曹の遺骨は三三三ぶりに故郷に帰り、眠れることとなった。当該地域は区画整理され、当時の面影はない。



平馬康雄軍曹

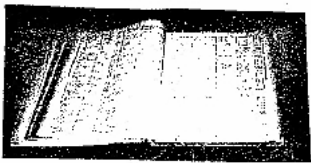
九 昭和一〇年の越ヶ谷の電話番号簿

谷岡 隆夫



明治四一年に越ヶ谷局で電信通話が開始された。大正五年、越ヶ谷で電話加入者は四七名であったが、昭和一〇年の越ヶ谷の電話番号簿によると、一六〇名に増加している。この番号簿をみると、旧日光街道筋の旧家や名士が名をつらね、当時の様子をうかがい知ることができる。

- 一番 越ヶ谷郵便局
 - 二番 川崎第百銀行支店
 - 三番 中村晴彦
 - 四番 山崎長右衛門
 - 五番 小泉市右衛門
 - 二番 埼玉鴨場
 - 一三番 越ヶ谷警察署
 - 一九番 武州大沢駅
 - 二九番 東武電燈
 - 四二番 越ヶ谷町役場
- 他は省略



◇越ヶ谷の加入者一六〇名に対し、草加も同じ一六〇名、粕壁は二二六名。◇通話料金は、大宮・岩槻・赤羽へは一〇銭。名古屋一〇〇銭、大阪一五〇銭であった。大正一四年に電話番号簿は縦書から横書に変更された。当時の縦書の和文様式が、横書に変更されるのは随分議論をよんだ。電話加入者宅の電話番号札まで、写真のように横書に変更されました。現在、越谷市内の軒先で見られる電話番号札は数少なく、貴重なものとなった。



十 新方川（千間堀）の源流

宮川 進

私たちの越谷市の北の市境を流れる新方川は近世には新方領・岩槻領の用水・悪水（排水）路として利用され、千間堀と称され、明治期には新方領堀といわれていました。

近世のいつの時期にか、谷原沼、大場沼、新方沼などを干拓して千間堀を開削したものか、と推定されます。

この新方川（千間堀）の源流はどこにあるのでしょうか。

そもそもが、春日部市西部地区の農地の余り水を集めた「川」ですので、いくつもの小さい水路の寄り集まりですが、主な源流は、次の三つです。

- ①春日部市増戸から始まる、地元の人いう「オオヌキ」川
- ②春日部市豊町から始まる、「中之堀川」
- ③春日部市谷原一丁目から始まり、春日部市役所の前を流れる「会之堀川」

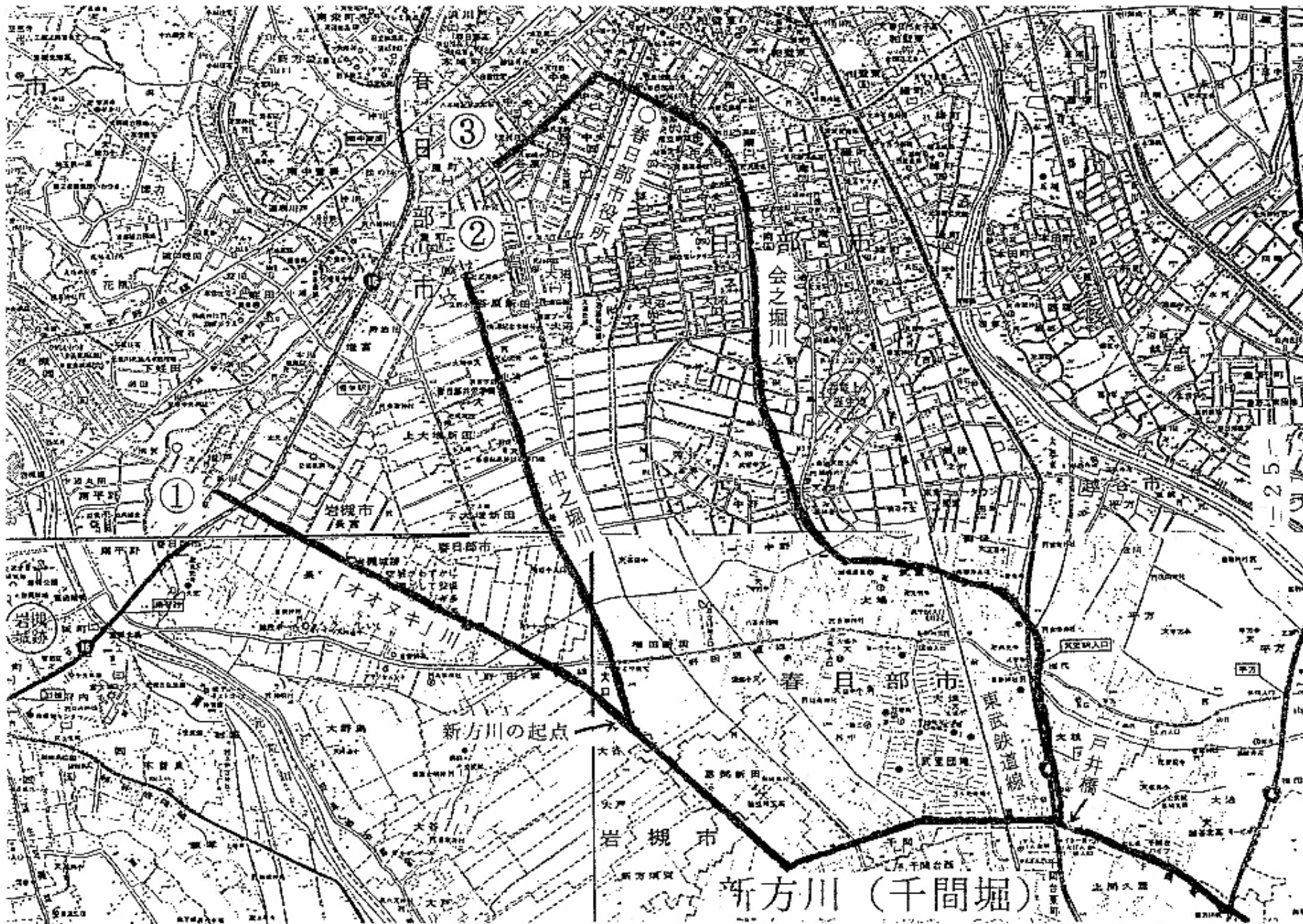
そして、一級河川としての新方川の起点は①と②の合流点である春日部市増田新田（左岸。右岸は岩槻市大戸）となっています。また、③の「会之堀川」は、越谷市の上間久里・戸井橋附近で合流しています。

成り立ちが「排水路」ですから、やむをえないところもありますが、三十万都市のまんなかを流れる川としては今後、市民生活の憩いの場ともなるような「浄化」を実現してゆきたいものです。

参考書 レイクタウンボイス（平成7・2 越谷市）

角川日本地名辞典11 埼玉（昭和55・7 角川書店）

埼玉県の地名（93・11 平凡社）



1:25

③

②

①

新方川の起点

新方川 (千間堀)

東武鉄道線

音田市

岩槻市

岩槻市

春日部市

厚谷市